

「緑・自然環境方針案」に対する意見及び対応 その2

<意見>

印象として、文章一つひとつはわかる気がするのですが、寄せ集めといった感じがします。「現状」の1)で述べられている事、わたしもそう思います。ただ、クロマツの植栽の必要だということと、ハマヒルガオなどの多くの砂草を植栽・保護することとは異なるテーマだとも思います。

日ごろ私が申してますコウボウムギの飛砂防止が、結果として人様に役立ちはしますが。

(対応)

テーマを分けて記載します。

<意見>

「海の家建設や海水浴客、車の乗り入れ・・・サイクリング道路・・・海浜植生は著しく破壊されている。」と「まとまった広い面積を残して保全していく必要がある」これと、下にあります「海岸でのイベント」や「レクリエーション活用区域」は整合しますか？ たったあれだけの面積のなかで。

(対応)

第14回推進会議では、海水浴場北側の駐車場について議論が進められました。交通ネットワーク方針での検討にあるように、駐車場については、地区内においては必要最小限とし、来訪者用に地区の周辺に確保していく方向性が示されており、現状においては、面積的に確かに十分とは言えない状況ですが、観光協会や海水浴場組合との調整の中で、駐車場の廃止が実現できれば、一定の面積が確保できる中での砂浜の再生は可能と考えます。また、自然環境に影響を与えない範囲において、レクリエーション活用区域の利用が行われるような記載に修正します。

<意見>

いわゆるサザンビーチは、海岸侵食・漁業・砂草の環境が荒れている、という点で、約6キロの茅ヶ崎海岸のなかの極めて重要な場所です。だからこそ敢えて「公園」という言葉を私は使ったので。

(脱線しますが、「砂浜が連続した自然の軸を形成している」のいう表現が唐突に挿入するのはいただけません) それと、「茅ヶ崎海岸」というコトバがサザンビーチを現している場合と茅ヶ崎の海岸全体の場合が混在しているように思えるのですが。

(対応)

用語の使い分けについて検討します。

<意見>

76年の「茅ヶ崎市の植生」に関してですが、宮脇先生がおっしゃる絶対に人を踏み入れさせない、とは、私のイメージする具体的な方法は石狩市で実行している木道を使う方法で、観察にも役立つものです。(写真)

(これも脱線ですが、報告書で書かれております、ハマグルマコウボウムギ群集という表現は、少なくとも茅ヶ崎の海岸においてはハマグルマ存在しませんから訂正すべき規定だと思えます)



(対応)

石狩市の木道については、11ページの「3) 散策路の設置」における事例研究の対象として検討に値するものと思われます。次年度に検討する海岸自然公園整備計画の中で参考にします。

<意見>

B地区の排水による海水の水質悪化が述べられていますが、海水汚染は相模湾の漁業にとって深刻な課題ですが、相模川と柳島の処理場という大きな問題抜きなのは如何なものでしょうか。そして、これは他の場所で述べられています海岸のゴミ問題やエボシ岩ですが、目に見える海岸がきれいになることに異論はありません。が、海の中も様々なゴミが一杯な様で(木幡先生)、エボシ岩のことはウメボシイソギンチャクをもって言われているのでは、とおもいますが、この問題は「引き続き調査を進める」という次元ではなく、人間が食料にしている魚介類の生息する海の自然環境を真剣に改善しなくてはならない、という視点で捉えるべき問題ではないでしょうか。

決して、観光漁業が成り立てばよいというレベルではないと思えますが。

「2010年までに、豊かな砂浜が維持され、海岸の生物とふれあえるようにしよう」
物事をまじめに、堅実に進めたいと思っている私にとってこのような表現は、啞然とさせるものです。過度に荒らされたサザンビーチの裸地の緑化がどんなに大変なのか考えてください。だから
試行する場所の必要性を訴えているのです。そして、今なお海砂以外の土砂を駐車場つくりのためサザンビーチ入ながら4年後に実現できますか。

以下、余談

現在、私たちはハマヒルガオ、ハマエンドウの栽培技術の理論的な方策は取得しています。ハマカキラン、クゲヌマランについては、今年から研究に入ってもらっています。

「海岸における絶滅危惧種」のところでやっと動物の記載があります。
砂草に様々な昆虫が係わっておりますが、草の無い前浜、後浜にも動物がおります。

茅ヶ崎の地先にはアマモやコアマモは生息していませんが、波打ち際に打ち揚げられることはしばしばで(今年は5月)、丁寧に観察すればハマベゾウムシが発見できるかも知れません。汀線から300メートルの辺りには以前は、昆虫ではありませんがザトウムシが沢山いたものです。
